

令和6年度学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会（協議概要）

1 日 時 令和7年2月18日（火）14:00～

2 会 場 和歌山県自治会館 304 会議室



3 協議内容

- （1） 令和7年度における学校部活動の地域展開等の推進について
- （2） 和歌山県学校部活動および地域クラブ活動の在り方等に関する方針の一部見直しについて
- （3） その他

4 委員による主な意見と事務局の説明（○＝委員 ●＝事務局）

（1） 令和7年度における学校部活動の地域展開等の推進について

- 県庁内での連携はどのような部署で行われていますか。
- 2024年度は教育支援課、義務教育課、生涯学習課、スポーツ課、県スポーツ協会、文化学術課の担当者が話し合いの場を持ち協議をした。
- 県では行政内の連携について検討されているようだが、市町村においても行政内の連携や役割分担が重要だと感じる。
- 広域な連携体制を構築する際の対象として様々な立場の人が繋がれることが大切ではないか。
- 広報や情報共有は協議や立場による偏りが生じないようにしてもらいたい。
- 教師等の兼職兼業について教えてほしい。
- 市町村立学校教職員の兼職兼業については、学校長及び市町村教育委員会が判断することになる。教師等の兼職兼業の運用についての体制整備も必要であるが、一方で活動実施団体の給与支払い等に関する体制整備も重要である。源泉徴収など報酬を支払うには、一定の手続きが必要になる。給与支払いについて各実施団体で個々に体制整備することも考えられるが、現実的には給与支払い能力を有する団体と業務提携する形も考えられる。
- コーディネーターの役割が重要。地元では2校の10名が兼職兼業しているが報償費は実証事業経費から捻出している。R8以降でも実証事業のようなものがあれば良いが国費の補助は恒久的なものではない。地域クラブの自立がポイントとなる。地域クラブでの活動も学校説明会等で紹介してもらうなどの連携で参加者を増加させ、地域のスポーツ環境整備を目指せればと考える。eスポーツも運動として認められてきている昨今は、ゆる部活等へのニーズもある。
- 9市の教育長が集まる会があり、地域展開についても議論になるが、なかなか進んでいない。田辺市は面積が広いので難しいそうという意見もあった。和歌山

市も学校が多く部活も多いが、2つのモデルを示し取り組むことを計画している。

- 地域クラブの指導者と中学校の顧問との連携が進んでいない。
- 学校部活動と地域クラブ活動が併存している状況で、チーム構成や指導の在り方などで顧問も大変に感じる場面もあるようだ。
- 指導者の資格取得状況が悪い。高齢化や若年層が取得しない状況がある。
- 指導者の資格取得についても啓発が必要であると感じる。
- 吹奏楽に関しては、多様な楽器の演奏について指導を行うので、専門的な指導者を地域から招聘することがある。そういった活動の特性からも指導者人材の情報は重要であると考える。また、地域クラブへの展開についても、楽器の保管や活動場所の確保など、学校とは切り離せない部分があり、そうするとセキュリティの課題も生じてくる。

(2) 和歌山県学校部活動および地域クラブ活動の在り方等に関する方針の一部見直しについて

- 昨年度から協議会に参加しこの事業ができるのか疑問に感じてきた。2024年度の取組を聞き前に進んでいるのかなとも感じる。様々な課題があるが、こどもの意見を大切にしてほしい。地元のアスリートが世間で活躍し、また地元で後進の育成に携わりたいと言ってくれている。このように地元で育ったこどもたちがその後も指導にかかわりたいと思うようなスポーツや文化芸術活動が地域で行われる社会になってほしい。